

第31回 都中P広報紙コンクール(総評)

東京都中学校新聞教育研究会 会長

豊島区立千登世橋中学校 校長

小林 豊茂

まずは、広報紙コンクールに昨年度末から、学校がコロナウイルス感染防止による休業が続いたために、PTA活動もなかなか進められにくい中、応募していただいたことに感謝申し上げます。

入賞されました学校をはじめ、各学校とも応募作品を拝見しますと、生徒の活躍や学校行事の様子等が、写真と共に紙面に掲載されており、PTAの皆様の中学校教育に対するご理解・ご協力の様子が伺われ、重ねて感謝申し上げます。

毎年の審査で何度かノミネートされている学校の広報紙は、その年度の担当される皆さんが、伝統として紙面作りを引き継いでこられているなど感じるものがありました。一方で、新たなアイデアで目を引く広報紙もありました。

年々、どの広報紙もカラフルでビジュアル化しています。生徒の学校行事や活動時の様子を捉えた写真では、躍動感と笑顔のあふれたものばかりで、きっと配付された広報紙を見た生徒や保護者の皆さんは、その時の思いが蘇るものだと思います。

その中でも、やはり最終審査に残る作品に共通していることは、写真だけでなく、読者を引きつける見出し(タイトル)があったり、PTAの活動や学校の行事が具体的に文書による説明が記されていたり、と語りかける広報紙になっていました。文字の力というか広報紙作成の担当者の思いが綴られているものは素晴らしいなど改めて感心しました。

今後さらにPTA広報紙として期待するところは、各校のPTAを紹介したり、活動したことが報告されたりする、読者(PTAや地域関係者等)への「周知」がうまく図られるような紙面づくりと、紹介・報告等にとどまらず、様々なPTA活動を会員によって評価し考察している記事、いわゆるPTA活動のさらなる充実を求める「啓発」に努めたものが多くなればと思います。